

AMEDデータ活用・ライフコース研究シンポジウム

プログラム

13:00 AMED挨拶 AMED データ活用・ライフコース研究開発事業部 部長 田中 桜
13:05 趣旨説明 AMED データ活用・ライフコース研究開発事業部 ライフコース研究開発課 調査役 山田 悠至

13:10 【第1部】 施設間データ共有プロジェクトの最前線

座長 AMED データ活用・ライフコース研究開発事業部 ゲノム・データ研究開発課 課長 加藤 恭丈
講演 改正次世代医療基盤法が拓く医療データの利活用 京都大学 黒田 知宏
講演 Cyber OncologyによるJ-CONNECTについて 京都大学 武藤 学
講演 医療AIサンドボックスの構築と医学研究への展開 藤田医科大学 岩田 仲生

14:10 休憩

14:20 【第2部】 ライフコースデータによる疾患研究の最前線

座長 AMED データ活用・ライフコース研究開発事業部 ゲノム・データ研究開発課 課長 加藤 恭丈
講演 東北メディカル・メガバンク計画における疾患研究のためのライフコースデータ 東北大学 木下 賢吾
講演 バイオバンク・ジャパン試料を用いた疾患研究とデータパッケージ 東京大学 松田 浩一
講演 バイオバンク・ネットワーク ジャパンによるライフコースデータの利活用と疾患研究の支援 東北大学 荻島 創一

15:20 休憩

15:30 【第3部】 施設間データ共有によるライフコース領域の疾患研究紹介

座長 AMED データ活用・ライフコース研究開発事業部 ライフコース研究開発課 調査役 山田 悠至
研究紹介 分散型モバイル・ネットワークによる母子ライフコースデータ解析基盤
～“胎児プログラミング説(DOHaD)”への革新的アプローチ～(成育疾患克服等総合研究事業) 埼玉医科大学 泉田 欣彦
研究紹介 妊娠糖尿病を起点とした女性と児のライフコース型糖尿病予防戦略の構築
(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業) 東北大学 石黒 真美
研究紹介 アレルゲン感作・HLA・皮膚バリア機能に基づいたアレルギー疾患の病態解明と予防戦略
(免疫アレルギー疾患実用化研究事業) 筑波大学 野口 恵美子
研究紹介 マイレジストリにおける真のリアルワールドデータ(RWD)構築と利活用による薬事承認・疾患異種性の克服
(障害者対策総合研究開発事業<精神障害分野>) 国立精神・神経医療研究センター 竹田 和良
研究紹介 健康長寿社会の実現を目指した大規模認知症コホート研究(JPSC-AD)の最新知見
(認知症研究開発事業) 九州大学 二宮 利治

16:20 休憩

16:30 【第4部】 総合討論

座長 AMED データ活用・ライフコースプロジェクトプログラムディレクター 武田 伸一
AMED データ活用・ライフコース研究開発事業部 部長 田中 桜
パネリスト 黒田 知宏 武藤 学 岩田 仲生 木下 賢吾 松田 浩一 荻島 創一
泉田 欣彦 石黒 真美 野口 恵美子 竹田 和良 二宮 利治

17:00 閉会挨拶 AMED データ活用・ライフコースプロジェクトプログラムディレクター 武田 伸一
17:05 閉会

場所:トラストシティ カンファレンス・丸の内 Room2+3+4

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-1

定員:(事前申込制)会場:150名 当日ウェブ配信参加:500名

日時:令和8年3月20日(金・祝)

13:00~17:05 (開場・受付開始 12:30)

お申し込み
合わせ先

日本医療研究開発機構 DLCシンポジウム2026事務局
E-mail: DLC-Sympo2026@amed.go.jp

下記ホームページよりお申込みください。

QRコードからもアクセスできます。

https://www.amed.go.jp/news/event/page_0033.html



国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
Japan Agency for Medical Research and Development

〈背景〉

AMEDデータ利活用・ライフコースプロジェクト(PJ5)は、(1) データ駆動型研究の推進、(2) ライフコースを俯瞰した研究、(3) 革新的なシーズの創出および出口志向のマネジメントを推進するためのデータ利活用を基本方針としてプロジェクトを推進しています。これまで、AMEDでは、バイオバンク、データベース、コホート研究などのデータ基盤の整備、利活用を進めてきたところですが、AMED第3期になり、これらデータ基盤をより疾患研究に活用することが求められています。そこで、上記基本方針のうち、今回は(1)(2)に焦点を当てて、AMED研究開発の現在地、また今後必要な研究のあり方を検討するために、公開シンポジウムを開催します。

【第1部】施設間データ共有プロジェクトの最前線

座長 加藤 恭丈 (AMED データ利活用・ライフコース研究開発事業部 ゲノム・データ研究開発課 課長)

「改正次世代医療基盤法が拓く医療データの利活用」

京都大学:黒田 知宏

令和6年4月1日の改正次世代医療基盤法施行によって、仮名加工医療情報の利用やNDB等の国有データベースとの連結が可能になった。加えて、利用者が安全・簡便に医療情報を利活用できる「Visiting環境」等の整備も、AMED事業のもとで進められている。本講演では、これらの活動の末に、どのような環境のもとでどのようにデータが利用できるようになるのかをお示しし、我が国の情報基盤の将来を展望する。

「Cyber OncologyによるJ-CONNECTについて」

京都大学:武藤 学

がん領域において、医療機関により異なるカルテベンダーを乗り越える方法として京都大学がPRIME-R 社と共同開発したCyber Oncologyを導入し、高品質なリアルワールドデータ(RWD)の利活用を進め、医療の質向上と学術研究を加速させている。本講演では、こうした取組の現状と展望を概観する。

「医療AIサンドボックスの構築と医学研究への展開」

藤田医科大学:岩田 仲生

国の医療DXの目標として中央化された標準化データを如何に利活用していくかが課題となっている。特に各施設でのシステム維持や接続コスト、データ利活用や新たなテクノロジーAI(LLM)の利用を実装するためにMIG(Medical Intelligent gateway)を構築し知的カルテシステムの運用を開始している。国のシステムとの連結、サマリー生成システムや音声入力などのカルテ支援、臨床研究支援、様々な民間サービスと連携することで社会実装を具体化しエビデンスの創出を目指している。本講演では、こうした取組の現状と展望を概観する。

【第2部】ライフコースデータによる疾患研究の最前線

座長 加藤 恭丈 (AMED データ利活用・ライフコース研究開発事業部 ゲノム・データ研究開発課 課長)

「東北メディカル・メガバンク計画における疾患研究のためのライフコースデータ」

東北大学:木下 賢吾

東北メディカル・メガバンク計画(ToMMo)は、2026年3月末に前向きコホート研究として第3回追跡調査を完了し、4月より第4回調査へ移行する。本講演では、これまでに収集・蓄積してきたゲノム、臨床情報、生活習慣情報等のライフコースデータを概観する。特に、日本人集団における疾患エビデンスの不足を補う取り組みに焦点を当て、潰瘍性大腸炎や海馬体積変化などの具体例を通じて、疾患研究へのデータ利活用の可能性を示す。

「バイオバンク・ジャパン試料を用いた疾患研究とデータパッケージ」

東京大学:松田 浩一

バイオバンク・ジャパン(BBJ)では、51疾患を対象に約27万人分のDNA、最大10年間に及び時系列血清、ならびに詳細な臨床情報を収集するとともに、公的バイオバンクとして試料・情報の利活用促進に取り組んできた。本シンポジウムでは、BBJにおける多層オミックス解析を通じた疾患研究の成果とともに、約23万人のゲノム・臨床情報、約4.5万人のメタボロームデータ、約3,000人のプロテオームデータからなるデータパッケージの利用方法について紹介する。

「バイオバンク・ネットワーク ジャパンによるライフコースデータの利活用と疾患研究の支援」

東北大学:荻島 創一

日本の主要な14のバイオバンクによるバイオバンク・ネットワーク ジャパンでは、70万人の協力者の198万検体の生体試料、33万件のゲノム・オミックス情報の大規模な利活用システムを構築している。約8,500疾患を対象に、時系列にわたる病名・罹患歴を検索・閲覧することが可能である。本講演では、ゲノム研究プラットフォーム利活用システムが、生体試料、ゲノム情報と診療情報によるライフコースの疾患研究の支援について紹介する。

【第3部】施設間データ共有によるライフコース領域の疾患研究紹介

座長 山田 悠至 (AMED データ活用・ライフコース研究開発事業部 ライフコース研究開発課 調査役)

「分散型モバイル・ネットワークによる母子ライフコースデータ解析基盤～“胎児プログラミング説(DOHaD)”への革新的アプローチ～」 (成育疾患克服等総合研究事業) 埼玉医科大学:泉田 欣彦

我が国では母児・周産期データはローカルに孤立、断片化しており、児の長期的影響を評価するライフコース情報基盤は未整備であった。本研究では、産科電子医療記録(EHR)、患者生成データ(PGHD)、診療報酬明細書(レセプト)・診断群分類包括評価(DPC)情報等を分散型モバイル・ネットワーク(Decentralized Mobile-Network)で連結するmLINK-appを開発した。本システムはSync for Science-J APIにより、QRコードでEHRを取得し、患者中心のe-Consentに応じたデータフローを実現した。医療、行政等のアーキテクチャを構築することが可能となり、管理領域を超え時間軸で連結するライフコース情報基盤から新たな“胎児プログラミング説(DOHaD)”に基づく疾患制御法の開発へと展開していく。令和8年から埼玉県、愛媛県、新潟県、東京都における研究エリア拡大を計画しており、欧州EHDS型のデータ二次利用を見据えた社会実装研究を実施する。

「妊娠糖尿病を起点とした女性と児のライフコース型糖尿病予防戦略の構築」 (循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業) 東北大学:石黒 真美

妊娠糖尿病(GDM)は分娩後に多くが軽快するものの、将来的な母の2型糖尿病発症や児の肥満リスク増加と関連することが知られている。本研究では、東北メディカル・メガバンク計画三世代コホートの大規模かつ長期追跡データを用い、GDM女性およびその児における短期・長期アウトカムに関連する因子を解析する。さらに、得られた知見を基に、GDM発症予測、将来の2型糖尿病発症リスク予測アルゴリズムを構築し、母児のライフコースを見据えた実用的な予防・管理指針の確立を目指す。

「アレルギー感作・HLA・皮膚バリア機能に基づいたアレルギー疾患の病態解明と予防戦略」 (免疫アレルギー疾患実用化研究事業) 筑波大学:野口 恵美子

本講演では、食物アレルギー等のアレルギー疾患に対する予防・治療法開発を目指した、既存データの活用と新規検体・情報収集の取り組みを紹介する。アレルギー疾患は、年齢とともに異なる疾患が発症・進行する「アレルギーマーチ」というライフコースをたどる。今回は、複数施設間における食物アレルギー検体収集の複雑さに対する取り組みと、アレルギー疾患の一次予防に寄与する分子基盤の解明、および今後の展望について概説する。

「マイレジストリにおける真のリアルワールドデータ(RWD)構築と利活用による薬事承認・疾患異種性の克服」 (障害者対策総合研究開発事業<精神障害分野>) 国立精神・神経医療研究センター:竹田 和良

マイレジストリ(精神疾患レジストリ)では、児童・思春期から成人に至る患者情報を、第1層:人口統計学的情報等、第2層:臨床情報、第3層:生体情報の3層に分け収集し、縦断的なフォローアップは、ePROを活用して、精神症状、QOL、薬物等の情報を収集している。アカデミアでは、電子カルテの構造化データ自動連携システムCyber-NPを開発・実装し、市中病院・クリニックでは、クラウドデータ収集システムの開発を進め、これらにより、真のRWDを構築し、利活用による薬事承認、さらに疾患異種性を克服した層別化研究を進めている。

「健康長寿社会の実現を目指した大規模認知症コホート研究(JPSC-AD)の最新知見」 (認知症研究開発事業) 九州大学:二宮 利治

超高齢社会を迎えたわが国では、認知症の急増が医療・社会の重要な課題となっており、認知症コホート研究によって認知症の危険因子・防御因子を同定するとともに、その病態を解明することが不可欠である。JPSC-AD研究は、2016～2018年度に全国8地域の地域高齢者11,955人を対象に臨床情報、頭部MRI画像、保存血清およびゲノム情報を収集した。さらに、2024年3月までに死亡、心血管病、認知機能障害の発症に関する追跡調査を完了した。追跡率は、生存・心血管病情報で96%、認知機能障害で92%と高率であった。本講演では、本研究から得られた主要な成果について報告する。

【第4部】総合討論

座長 武田 伸一 (AMED データ活用・ライフコースプロジェクトプログラムディレクター)
田中 桜 (AMED データ活用・ライフコース研究開発事業部 部長)

パネリスト 黒田 知宏 武藤 学 岩田 伸生 木下 賢吾 松田 浩一 荻島 創一
泉田 欣彦 石黒 真美 野口 恵美子 竹田 和良 二宮 利治